

図書館だより

No.25

●「図書館のすすめ」

上智大学長 曄道 佳明

●図書館ツアーのご案内

●図書館を活用しよう！

●教えて! ソフィアンくん

～ 第8回 図書館の基本を覚えよう! ～

●図書選定委員お薦めの本

法学部国際関係法学科 教授 出口 耕自

●豆知識

「奥付」について



「図書館のすすめ」

上智大学長 曄道 佳明



年度の初めにあたり、新入生の皆さんを歓迎する気持ちを込めて、「図書館のすすめ」について記してみたいと思います。

私は、大学は“場”であると考えています。多様な人が集い、そこで議論が交わされ、智の開拓が行われる“場”です。もちろんその空間だけでは、智の生産的な活動が行われることはありません。当然のことながら、研究、教育の“場”として、水準の高い、活用意義の高い機能を持ったキャンパスであることが求められます。

さて、大学に在籍し、学び、探求する活動を行う学生の皆さんにとって、大学という“場”はどのように活用されるのでしょうか？一つは、講義を通して知識の整理を行う教室の存在があります。ここでは、友人や教員との議論の場も提供されるでしょう。一方で、自分自身の主体的な思索の“場”はどこにあるのでしょうか？私は図書館の活用を勧めたいと思います。

図書館の活用には、3つのプロセスと、そのそれぞれの意義があると考えます。

一つは、図書館に足を運ぶという行為です。智の宝庫である図書館に身を置きに行くという行為そのものこそ、深い思索の、そして新しいアイデアの源泉へのアプローチといえます。私には、本学の図書館に足を運ぶ学外の知人が数人います。彼らに「何故上智の図書館へ？」と尋ねると、ある人はその蔵書を、またある人はその雰囲気や理由を挙げました。前者は、他にはない専門書の所蔵が、新しい知識整理や深い考証を可能にするといえます。

また、後者は、思索にふける人々と同じ空間に身を置くこと自体が、新しいアイデアの発現に大きな役割を果たすといえます。上智の図書館はこの雰囲気によって優れているのです。

次のプロセスは、蔵書へのアプローチです。自分が求める一冊へのアプローチはもちろん、その周囲にある関連図書を手にとってみるという行為は、自身の探求力の可能性を無限に広げる最も有効な手段であるといえます。昨今の情報社会の中にあって、手元に届く情報は量こそ溢れているものの、創造的な知的生産活動に適したものであるとは言い切れません。書物とは、書き手の志や思いが込められた知的産物であり情報とは違います。もちろん、ネット社会においても書物に目を通すことは可能ですが、目次に表れる著者の思い、本文における著者の主張、あとがきに込められた著者の作品への自己評価、引用文献に見る創作の環境などが、文字通り手中に収められるという知的興奮は、やはり書物によってのみ得られるものです。

そして仕上げのプロセスは、図書館において、叡智の凄味に触れながら、自分自身の思索の時間を持つという、何にも代えがたい創造的経験でしょう。図書館には先人たちの知的生産活動の粋が、書物、文献などの形態によって凝縮されています。この空間は、物理的な工夫によって実現されるものではありません。形でもなく、言葉には言い表せない学問の深さを体感できるこの雰囲気こそ、図書館の醍醐味があります。

近年では、図書館にラーニングコモンズとしての機能も加わり、議論の場としての意義も加わりました。まさに、智が結集し、さらに議論を通して新しい叡智へのアプローチを繰り広げられることができる空間です。図書館とは、学生のみなさんが足を運び、蔵書を手に取り、思索にふけり、そして議論を行うという知的生産活動をトータルで行うことができる稀有な環境を提供するのです。

図書館ツアーのお知らせ

図書館では、以下の日程で図書館ツアーを行います。図書館の主な箇所を、図書館のスタッフと一緒にまわります。このツアーに参加すると、図書館の使い方がわかるようになりますので、ぜひご参加ください。

参加者には、記念品をプレゼントします。

実施日程・時間 所要時間は各回30分程度で、同内容です（予約不要）。

実施内容 中央図書館の主要な箇所を約10名ずつのグループに分かれて見学します。

集合場所 各ツアー開始時間の5分前までに、中央図書館1階正面右側のレファレンスカウンター前にお越しください。

Library tour



実施日	出発時間		
4月 3日(月)	12:00	15:00	
4月 4日(火)	10:00	13:00	
4月 7日(金)	10:00	11:00	13:00
4月11日(火)	10:00	13:00	

図書館を活用しよう！

学生生活には欠かせない学習の場、図書館を120%活用し、充実した毎日を送ってください。様々なサービスを用意して皆さんの利用を待っています。詳細は「上智大学中央図書館利用案内」をご覧ください。見学しながら各サービス(場所)と写真をつないでみてください。

① 貸出カウンターと自動貸出機(1階)

貸出カウンターの前にある自動貸出機で、貸出手続きができます。リザーブブック利用や集密書庫の図書出納は貸出カウンターで手続きします。

② OPAC(各フロア)

上智大学所蔵の資料を検索できるOPAC専用端末が各フロアに設置されています。検索の方法が分からない時はレファレンス・カウンターへ。

③ レファレンス・カウンター(1階)

資料の探し方が分からない時や、他大学の資料を利用したい時に相談してください。本学図書館に所蔵がない図書の購入希望を出すこともできます。

④ ラーニングcommons(地下1階)

可動式の椅子と机が80席あり、貸出用PCやホワイトボードもあるので、プレゼンテーションの準備などに利用できます。学習支援席では大学院生スタッフに学習に関するさまざまな質問をすることもできます。

⑤ グループ学習室(地下1階)

グループで学習できるスペースです。プロジェクターを使用してのプレゼンテーションの練習ができ、電子黒板などもあります。

⑥ 学生ラウンジ(地下1階)

一人でホッとしたい時や、グループで歓談したい時に利用できます。自動販売機もあります。上智大学出版の図書や就職関連の本があり、ラウンジ内で閲覧できます。



A



B



C



D



E



F



A = ⑨ C = ⑤ B = ⑦
 D = ③ E = ② F = ①

正しい



教えて! Q&A ソフィアンくん



～ 第8回 図書館の基本を覚えよう! ～

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。もう、図書館には足を運びましたか? これからたくさんの課題やレポートに取り組んでいく皆さんにとって、図書館を上手に使えるかどうか、その成果を左右すると言っても過言ではありません。図書館の基本をしっかり覚えて、有効に活用してね!



分類別配架表

分類	配架場所	分類	配架場所
1. 建築学	519	2. 工学	520
3. 機械工学	521	4. 電気工学	522
5. 電子工学	523	6. 情報工学	524
7. 化学工学	525	8. 生物工学	526
9. 環境工学	527	10. 社会工学	528

入館ゲートを入ると正面に『分類別配架表』があるよ。これを見れば、どの分野の資料がどの階にあるのかがわかるよ。



OPACで検索すると『所蔵情報』に表示される『請求記号』

GAKUBU
519
D644

所蔵情報

配架場所をクリックすると配架位置が表示

No.	配架場所	請求記号
1	学部(地下2階)	519.D644

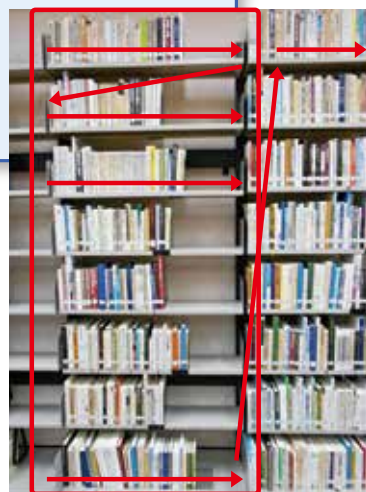
資料の背表紙にラベルで表示されているよ。資料を探しに行くときは、メモを取るのを忘れずに!



書架の脇には分類や請求記号を表すサインがあるよ。これを見れば、その列に、どの分野または、どの請求記号の資料が配架されているかわかるんだ。



資料は書架(本棚)ごとに配架されています。1段目の続きは2段目、2段目の続きは3段目…。隣の棚に移るのは、最後の段が終わったあとです。



学部図書(GAKUBU) 和書(NDC分類)

分類	配架場所
建設工学、土木工学	519
建築学	520
機械工学	521

サインには注意事項が書かれていることもあるよ。注意して見てみよう!



新書・文庫コーナーにない叢書(シリーズ名)は080の書架にならんでいます

☆雑誌名のABC順に配架されています。
Periodicals are shelved alphabetically by title.
☆雑誌は館外貸出を致しません。
Periodicals can not be checked out.

☆レファレンス資料の館外貸出は致しません。36-37

ここで紹介したのは図書館利用の基本です。資料の探し方などでわからないことがあったら、1階のレファレンスカウンターで質問してね!



図書選定委員お薦めの本

法学部国際関係法学科 教授 出口 耕自

『国際法研究余滴』(石本泰雄著・東信堂、2005年)

法学は、大人の学問であるといわれる。それは、実社会に生じる問題(紛争)の解決を探究するものである。この問題は、社会人になる前の学生には身近なものでないことが多い。学生が、法学を面白くないと思う一因である。大学1年生がいきなり「権利能力」「法人格」といった専門用語に触れて戸惑う姿をみることも少なくない。

法学に興味と関心をもつために、この学問における碩学の伝記を読むことをお勧めする。私が学生時代に読んだのが、①川島武宜『ある法学者の軌跡』(有斐閣、1978年、復刻版1997年)であった。この他にも、②田畑茂二郎『国際社会の新しい流れの中で』(東信堂、1988年)、③星野英一『ときの流れを超えて』(有斐閣、2006年)、④松尾浩也『来し方の記』(有斐閣、2008年)など推薦したい書は多い。そのようななか、今回は、純粋な伝記とは異なるが、⑤石本泰雄『国際法研究余滴』(東信堂、2005年)を紹介する。①③が民法学者、②⑤が国際法学者、④が刑事訴訟法学者の書であり、④⑤の著者は、本学においても専任教員として教鞭をとって下さった。

⑤の書の帯には、「学問と人生に向き合った一学者の軌跡」とある。初学者は、「はしがき」と第4部(エッセイ)でまず著者の人柄に接した後、第3部(②を含む著書の紹介)、第2部(時論)、第1部(基礎的論文)の順に読み進めるとよい。もとより、国際法の碩学としての著者の真骨頂は、第1部において発揮されている。ただ、著者自身も認めるように、第1部収録の論文には難解なところもある。初学者は、一度に全部わかつてせず、上記の順でまず通読した後に再び第1部から第4部へと精読してもらいたい。

⑤の著者は、若い時代から「国際法における戦争の法的性質」を主要研究テーマにしてきた。著者には『国際法の構造転換』(有信堂、1998年)という文字通りの名著があり、⑤の第1部第3章は、同書への思考過程が教師と学生・院生との対話形式で記録されており興味深い。戦争が、かつて長らく違法とされず、比較的最近になって違法とされたということさえ、初学者には驚きをもって迎えられるだろう。さらに、「戦争観念の転換が、国際法の規範構造の転換の中軸を占める」(⑤59頁)といった一見すると難解な論述が腑に落ちるようになれば、大学における勉学の醍醐味が感じられるばかりでなく、社会と法に対する鋭敏な洞察力も養われるというものである。

①～⑤は、法学部学生だけでなく、社会と法に関心のある一般学生にも面白いと感じてもらえると思う。法学専門的なところを全部は理解できなくてもいいので、一つの学問に生涯を捧げた先人の生き様から何かを学び取ってもらえれば幸いである。



- ① 川島武宜『ある法学者の軌跡』 320.4 : Ka973a : 2003 中央書庫 4 階
 ② 田畑茂二郎『国際社会の新しい流れの中で』 329 : Ta116ks 学部(地下1階)
 ③ 星野英一『ときの流れを超えて』 289.1 : H923 学部(地下1階) 法科大学院図書室
 ④ 松尾浩也『来し方の記』 289.1 : Ma854 中央書庫 6 階
 ⑤ 石本泰雄『国際法研究余滴』 329.04 : I782k 学部(地下1階) 法科大学院図書室



豆知識

「奥付」について

和書や和雑誌の末尾にあり、著作者や出版者の氏名と住所、発行年月日、版次と刷次、著作権表示などが記載されているページを奥付と言います。日本独特のもので、1722年に江戸町奉行大岡忠相が出した「新作書籍出版の儀に付触各」中の1条「何書物によらず、これ以後、新板の物、作者ならびに板元の実名、奥書に致させ申すべく候事」に由来します。

明治時代には1893年に出版法が制定され、奥付の記載の形式が整えられました。同法は、1949年に廃止され、奥付についての法的規制はなくなりましたが、書誌的な事項を含む重要な箇所であることから、慣行として継承されています。

参考文献：図書館情報学用語辞典(請求記号Ref : 010.33 : To724 : 2013)
 日本大百科全書(請求記号Ref : 031. : N715 : v.4)

叡智が世界をつなぐ

上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

上智大学図書館だより No. 25

発行所 上智大学図書館
 〒102-8554
 東京都千代田区紀尾井町 7-1
 TEL : 03-3238-3510
 FAX : 03-3238-3139
 発行日 2017年4月1日
 印刷 三鈴印刷株式会社
 TEL : 03-5276-0811